



## 巻頭言

麻酔科 診療科長

おおつか なおき  
大塚 直樹

「風薫る5月」とは言いますが、このところ連日気温差が大きく爽やかな「風薫る」とは言えなくなっていますね。

さて、私こと、4月1日付で当院開院以来、麻酔科診療科長を務めていらした鈴木尚志教授の後任として就任いたしました。

私が当院の前身である昭和大学附属豊洲病院に着任した2004年当時、夜になると豊洲駅から人の姿がほとんど無くなる状態でした。しかし、2008年に離任する頃には雨後の筍のごとくビルが増え、ラッシュ時にはホームから人があふれるほどに増加していました。そして、2014年に急成長する江東区をはじめとする近隣地域の急性期医療を担うべく設立された当院の開院スタッフとして、見上げるようなビルが林立する豊洲に戻り現在に至ります。



手術は急性期医療において欠かすことができません。私たち麻酔科医の主たる業務は麻酔科専門の知見や技術をもって麻酔を行い、身体にとって非常に大きな侵襲となる手術から患者様を守ることです。これはよく知られていることかと思えます。

対してあまり知られてはいないと思いますが、日々多くの手術が行われている手術室において、円滑な手術の進行を担う手術室調整業務も麻酔科の重要な業務の一つです。手術室では予定手術に加え緊急手術も行われています。手術は術者、麻酔科医、看護師など、多様な職種が関わっています。手術予定時間を超過したり短縮したりするなど、時間的にも人的にも流動的な状況に対応する必要があります。手術室調整業務はこのような状況下において、必要な人員の調整や手術室の割り当てを行い、可能な限り多くの手術を効率的かつ円滑に進めることを目的とした業務です。これは豊富な経験と確度の高い予測力そして豊かな想像力が必要とされる難度の高い業務です。これを麻酔科医と手術室専任看護師が担っているのです。

前述のとおり地域医療のために多くの手術を実施できるようにしていかなければなりません。昨今の医師働き方改革に伴い時間制限なく従事するわけにはいかなくなりました。より短時間でより多くの業務を行う必要性が高まっています。そのため、今後はより無駄をなくした効率的な手術室運営を行い、さらにより短時間でより多くの手術を行うための方策を探ってまいります。しかし、効率性を追求するあまり、必要なものまで端折ってしまい手術や麻酔の質が落ちてしまつては本末転倒です。

相反するような事象を包含する複雑かつ難解な連立方程式の解を導き出すべく尽力していく所存です。



## 第133号のトピックス

- ・巻頭言（麻酔科）
- ・当院で行われているロボット手術のご紹介①
- ・大久保江東区長が訪問されました。
- ・当院で行われているロボット手術のご紹介②
- ・第20回公開講座開催のお知らせ
- ・ご意見・ご要望
- ・編集後記

## 当院で行われているロボット手術のご紹介①

当院では令和6年7月より、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入して手術を実施しています。ダヴィンチは①サージョンコンソール（操縦席）、②ペイシェントカート（ロボットアーム）、③ビジョンカート（モニター）の計3つの機器から構成されています。

ダヴィンチを使用した手術の利点としては、体への負担が少ないこと、人間の手より大きな可動域と手ぶれ補正機能を備えていることによる緻密な動きの再現が可能なことなどが挙げられます。

### ロボット支援手術とは？—大腸がん手術の新たな選択肢

たなべ たろう

消化器外科/田邊 太郎

みなさん、「ロボット手術」と聞くと、どのようなイメージをお持ちでしょうか？

耳にしたことがある方もいるとは思いますが、実際どんな手術かを知っている人は少ないと思います。もしかするとSF映画のように、「ボタンを押せば、ロボットが勝手に手術を始めるのでは？」と考える方もいるのでは？しかし、実際にはそうではありません。ロボット支援手術とは、外科医が専用の手術支援ロボットを操作し、より精密な手術を行う技術です。

これまでの大腸がん手術は、開腹手術や腹腔鏡下手術で行われてきました。腹腔鏡下手術では、お腹に小さな穴を開け、そこから細長い器具を挿入し、カメラで映し出された映像を見ながら手術を行います。開腹手術と比較し、創も小さく、それに伴う術後の痛みも少なく、手術の歴史に大きな変革をもたらしました。一方で、骨盤内のような狭いスペースでは、器具の動きに制限があり、細かい操作が難しい場面もありました。

ロボット手術では、腹腔鏡手術をベースに、外科医が手術支援ロボットを操作し、高解像度の3Dハイビジョン映像を見ながら手術を行います。ロボットアームは人間の手のように自在に動き、細かく滑らかな操作が可能です。これにより、従来よりも正確な切開を行うことが可能となり、骨盤内にある排尿・排便・生殖に関わる神経機能の温存できる可能性が高まると期待されています。

日本では2018年から大腸がん領域のロボット手術が保険適用となり、少しずつ導入が進んでいます。ロボットも、私がロボット手術を始めた頃は、「DaVinci S」という第2世代のロボットでしたが、現在、当院を含め、多くの医療機関で「DaVinci Xi」という第4世代の手術支援ロボットが使用されています。まるでスマートフォンが進化を続けるように、手術機器も日々進歩しているのです。

これからも技術や機械の進歩を、みなさんの健康に還元していきたいと思う次第です。

## Report

### 大久保江東区長が訪問されました

2025年3月25日（火）、大久保江東区長が当院を訪問し、横山病院長の案内で院内を見学されました。

今後も地域の皆様と共に、より良い医療体制を築いていくために尽力していきますので、よろしくお願いいたします。



## 当院で行われているロボット手術のご紹介②

### ロボット支援 胃がん/食道がん手術の利点

おおつか こうじ  
消化器外科/ 大塚 耕司

ロボット手術の利点は、ロボットの鉗子（機械先端）は関節が多く、様々な角度から操作が出来ること、カメラも3Dであるため非常に細かい解剖まで見ることができ、繊細な手術が可能となります。そのため、合併症も非常に低率に抑えることができます。他にも多くの利点がありますが、手術をする医師においても座って手術が出来ることで長時間手術における肉体的負担も減りました。

各臓器における利点を述べるなら、ロボット胃がん手術では、腹腔鏡手術と比較すると、腓液ろうという腓液が漏れる術後合併症が減るというエビデンスがあり、ロボット手術の有用性が言われていて、当院でも良好な成績を得ております。

ロボット食道手術に関しては、全国的に明らかなエビデンスは出ていませんが、これまで1800例ほどの昭和医科大学病院時代の手術と比較しても、術後経過も非常に良好で満足のいく結果です。たとえば、私が江東豊洲病院に異動してからのロボット食道手術では、声がかれる合併症（反回神経麻痺）は0%（全国平均 約20%）、肺合併症も0%（全国平均 約10%）という結果です。そのため、患者さんは早期に回復されており、術後入院期間は約1週間という胃がん・大腸がんと同等の早い期間で退院されております（食道術後の全国的な平均入院期間は2～3週間）。

そのような意味でも、現在、江東豊洲病院では全例ロボット食道がん手術が日本トップレベルの術後成績となっております。術後合併症、特に肺炎があると予後が悪くなるという論文もあり、術後合併症を起こさないことは非常に重要です。

ご相談・治療ご希望の方は、お気軽にご連絡ください。外来日以外でも早期に診察させていただき、最短での診断・治療開始を目指しております。



術後2日目に病棟を歩行する  
食道術後の患者さんです。  
術後6日目で退院されています。

食道がんのロボット手術の様子  
です。写真右側の操縦席から大塚  
がロボットアームを操作してい  
ます。



## 第20回公開講座開催のお知らせ

6月7日（土）に第20回昭和医科大学江東豊洲病院公開講座を開催いたします。  
皆様のお申し込みをお待ちしております（受講 100名まで）。

開催日時：令和7年6月7日（土）14：00～16：30 受付 13：45 から

開催場所：昭和医科大学江東豊洲病院 9階講堂

『暮らしと健康・お尻と骨盤の異変に気付く！正しい知識と最新治療』

—骨盤臓器脱（子宮脱）と脱肛（内痔核）を中心に—

演題：「骨盤臓器脱の最新治療—身体に優しい低侵襲手術を目指して—」

演者：昭和医科大学江東豊洲病院 産婦人科 准教授 石川 哲也（いしかわ てつや）

演題：「お尻から何か出る！？—脱肛・直腸脱の正体と対策—」

演者：昭和医科大学江東豊洲病院 消化器外科 助教 田邊 太郎（たなべ たろう）

申込：受講のお申し込みは

5月8日（木）9時から

☎03-6204-6000（代表）昭和医科大学江東豊洲病院管理課

費用：無料

主催：昭和医科大学 後援：江東区

### ご意見・ご要望

感謝	回答
<p>入院前に私が受けた説明を後日夫にもして下さった。 手術当日も先生と顔を合わせることができ、安心することができた。 入院中も良くしてくださり、不安なことはありませんでした。</p>	<p>コメントを頂きありがとうございます。 引き続き質の高い医療を目指し努力します。 今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：循環器内科</p>

編

集

後

記

映画業界の宣伝文句として、「ゴールデンウィーク」という言葉ができたという説がございます。今年のゴールデンウィークも映画館に足を運ぶ方が多くいらっしゃると思いますが、今では時間や場所を選ばず、スマホ等で映画を視聴することも可能となりました。大学で芸術分野を専攻していた私としては、芸術・文化の楽しみ方の幅が広がっていることに嬉しく思うと同時に、かつての楽しみ方が廃れていく寂しさを感じます。それにしても、数年前まではコロナウイルスの影響で、外出もままならない日々が続いておりましたので、休みの過ごし方を選択できるだけでも、とてもありがたいことだと思います。今年のゴールデンウィーク、皆さんはどのように過ごしますか？

管理課 / よしだ 吉田 / にちか 二千佳



昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>  
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38  
TEL03-6204-6000(代表)  
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院  
ホームページ